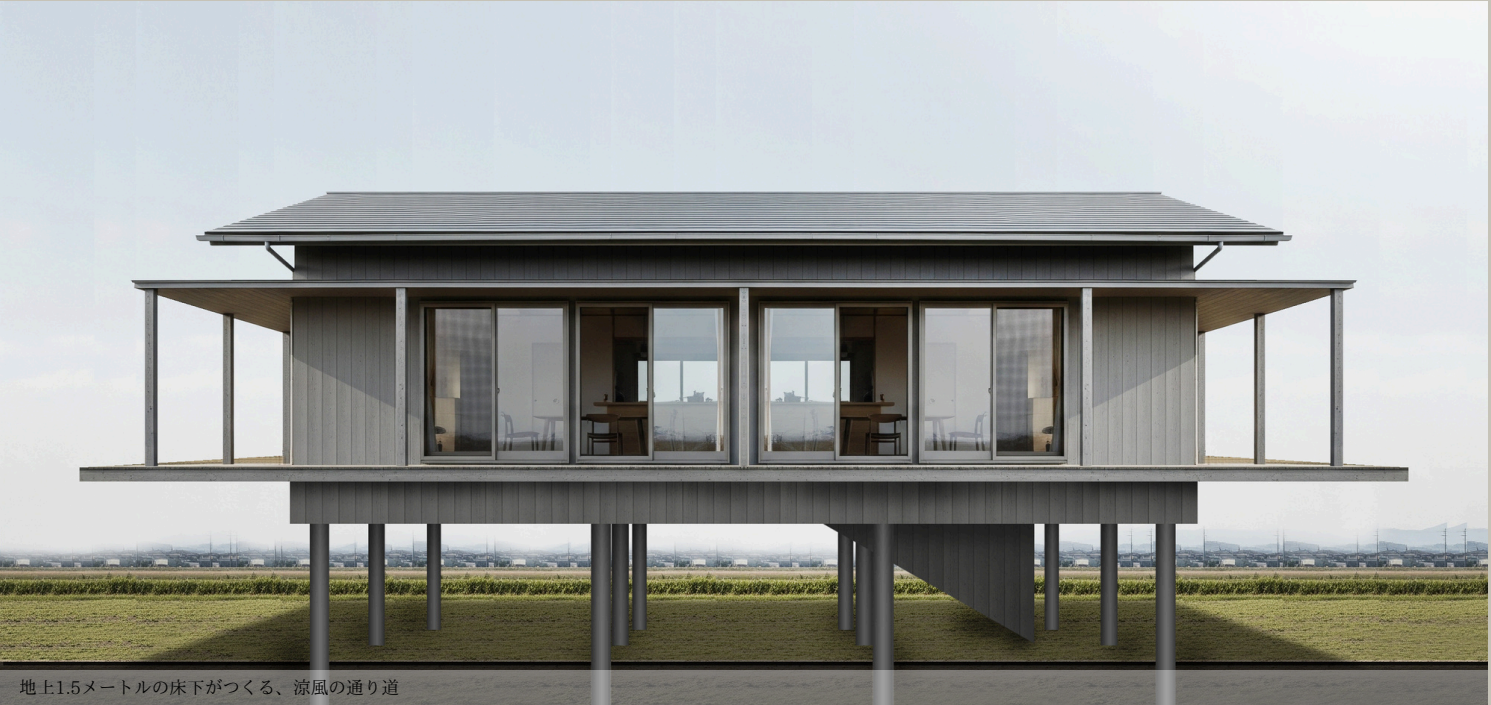




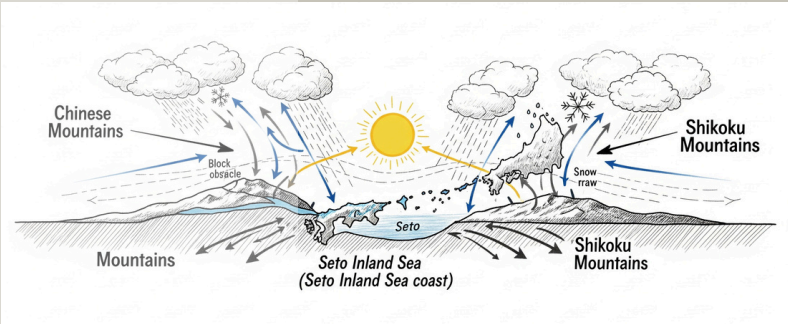
岡山の自然と調和する、風と光が巡る必然のかたち



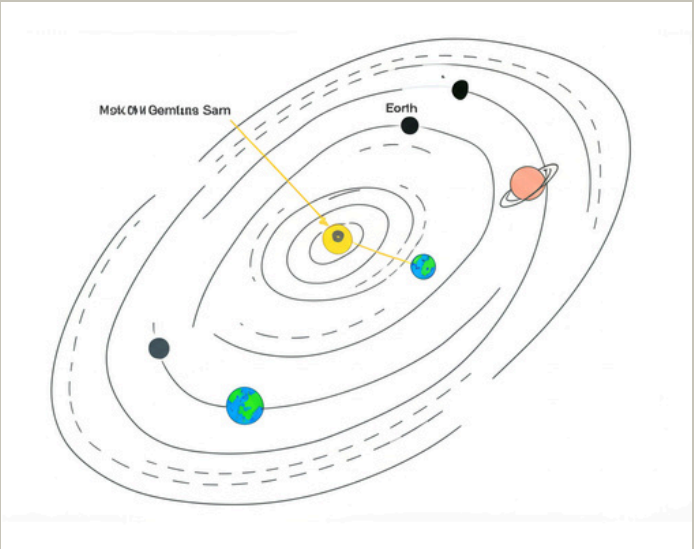
地上1.5メートルの床下がつくる、涼風の通り道

岡山から考える一風と光が織りなす 「Geometry Nodes(地理学との結節点)」

建築とは、単なる構造物ではなく、その土地の地理的・歴史的
文脈と深く結びつく「結節点」である。
地球上で光と熱の恵みがどのように分配されるかは、
地形や気候によって大きく左右される。



ここ「晴れの国・岡山」は、瀬戸内海と周囲の山々によって守られた穏やかな気候と豊富な日照に恵まれた、まさにその典型である。



太陽から地球へと届く光は、無限の宇宙を旅して、岡山という
一点にたどり着く。その光と風が、山々に遮られ、地形に導かれ、
やがて建築という形をとる。
私たちの創造は、宇宙的なスケールで見れば、
太陽と地球の幾何学的な関係——
すなわち「Geometry Nodes（地理学との結節点）」の一部なのだ。